

ニューヨーク・フィルハーモニック

NEW YORK
PHILHARMONIC

CREDIT SUISSE

Global Sponsor



©Chris Lee

©Chris Lee



©Dario Acosta

イエフィム・ブロンフマン(ピアノ)
Yefim Bronfman, *Piano*



リサ・バティアシュヴィリ(ヴァイオリン)
Lisa Batiashvili, *Violin*



アラン・ギルバート(指揮)
Alan Gilbert, *Conductor*

NEW YORK PHILHARMONIC

2014年

2/12(水) 19:00

サントリーホール

Wednesday, February 12, 2014 at 7 p.m. Suntory Hall

2/13(木) 19:00

サントリーホール

Thursday, February 13, 2014 at 7 p.m. Suntory Hall

【両日共】

S¥30,000 A¥26,000 B¥22,000

C¥16,000 D¥9,000 プラチナ券¥35,000

[2/12] ラウス: 狂喜

Rouse : Rapture

リンドベルイ: ピアノ協奏曲第2番

Lindberg : Piano Concerto No.2

ピアノ: イェフィム・ブロンフマン

Yefim Bronfman, *Piano*

チャイコフスキー: 交響曲第5番 ホ短調 op.64

Tchaikovsky: Symphony No.5 in E minor op.64

[2/13] ベートーヴェン: オペラ「フィデリオ」序曲 op.72b

Beethoven: "Fidelio" Overture

ショスタコーヴィチ: ヴァイオリン協奏曲第1番 イ短調 op.35

Shostakovich: Violin Concerto No.1 in A minor op.35

ヴァイオリン: リサ・バティアシュヴィリ

Lisa Batiashvili, *Violin*

ベートーヴェン: 交響曲第1番 八長調 op.21

Beethoven: Symphony No.1 in C major op.21

ガーシュウィン: パリのアメリカ人

Gershwin: American in Paris



気概ある“新しい声”への歓声—— ギルバート&ニューヨーク・フィルへの熱い期待

アラン・ギルバートがニューヨーク・フィルハーモニックの音楽監督に就任してから、やがて4年が経とうとしている。当初は、ニューヨーカーが音楽監督になるのは、フィルハーモニック史上初ということで、大変な話題になったものだ。しかしながら筆者には、この「ニューヨーカー」という言葉の重力が、今ひとつピンとこなかった。世界中から一流の才能を集めることに貪欲なニューヨークにあって、生粋のニューヨーカーということに、どれほどの意味があるというのだ？

もっとも、彼が音楽監督になってからピン!ときたことはたくさんある。

例えば日本公演でも演奏されるリンドベルイのピアノ協奏曲。これは、ギルバートが始めたコンポーザー・イン・レジデンス・プログラムの成果の一つとして、観客からも批評家からも高く評価された。一人の作曲家の作品を連続して取り挙げるミニ・フェスティバルも、彼が始めたものだ。最近では、バッハ(現代オーケストラによるバッハ!!)やブラームスの連続演奏が興味深かった。リゲティ《グラン・マカブル》や、ヤナーチェク《利口な牝狐の物語》の素晴らしい上演も、ギルバートのイニシアティブで実現した。

そして忘れてならないのが、彼が考案した「コンタクト!」という現代音楽シリーズだ。取り挙げる曲のほとんどの作曲家が会場に現れるという、正真正銘の現代音楽シリーズなのだが、ギルバートや作曲家が繰り広げるトークも楽しく、現代音楽にまつわる高尚なイメージ、堅苦しさは微塵もない。伝統的なレパートリーとともに、新しい声をニューヨークから発信しようという大いなる気概が、そこには感じられる。観客はそんな気概に対して、ロックスターを迎えるかのような熱い歓声で応える。それはまた、ニューヨーカーが率いる地元バンド、フィルハーモニックに対する、ニューヨーカー達の熱いサポートの表れでもある。

昨年秋、フィルハーモニックはギルバートとの契約を2016-17年まで延長した。ギルバートとフィルハーモニック、そしてニューヨーカー達の熱い関係は、まだまだ続く。

小林 伸太郎(音楽ジャーナリスト/ニューヨーク在住)

ニューヨーク・フィルハーモニック New York Philharmonic



©Chris Lee

1842年創立。アメリカ最古、世界的にも最も古く指折りの実力をもつオーケストラのひとつ。2010年5月には世界的にも類を見ない15000回目の公演を行った。音楽監督はバーンスタイン、ブーレーズ、メータ、マズア、マゼールといった錚々たる面々を経て、2009年からアラン・ギルバートがこの地位にあり、バイタリティある伝統のサウンドに緻密さを加えている。メディアにおける革新的な功績や、「ヤング・ピープルス・コンサート」などによる教育プログラムもまた、この楽団の重要な伝統である。

ある伝統のサウンドに緻密さを加えている。メディアにおける革新的な功績や、「ヤング・ピープルス・コンサート」などによる教育プログラムもまた、この楽団の重要な伝統である。

アラン・ギルバート(指揮) Alan Gilbert, Conductor



©Chris Lee

2009年からニューヨーク・フィル音楽監督。生粋のニューヨーカーがこの任にあるのは史上初。長期のフェスティバルや現代音楽のシリーズ「コンタクト!」を実現させ、2012/13年シーズンにはいくつかの作品の世界初演、ブラームスの作品シリーズを推し進め、「ニールセン・プロジェクト」も行っている。ストックホルム・フィル桂冠指揮者、ハンブルク北ドイツ放送響の首席客演指揮者を務めるほか、ベルリン・フィルなどの世界中の一級の楽団にも数多く客演。さまざまな受賞歴も数多い。

イエフィム・ブロンフマン(ピアノ) Yefim Bronfman, Piano



©Dario Acosta

1958年旧ソ連生まれ。早くから西側へ移住し、フライシャーやR.ゼルキンに師事。現代屈指のヴィルトゥオーゾ・ピアニストとして世界で活躍している。特に近・現代作品でのシャープな演奏は他の追随を許さず、近年ではサロネンやパレンボイムの指揮でバルトークのピアノ協奏曲全曲演奏を行った。ニューヨーク・フィルが委嘱したリンドベルイのピアノ協奏曲は2曲ともブロンフマンが世界初演している。

リサ・バティアシュヴィリ(ヴァイオリン) Lisa Batiashvili, Violin



グルジア出身。ミュンヘンで名教師チユマチェンコに師事し、1995年にはシベリウス国際コンクールで優勝。強い集中力にあふれた演奏で、若手を代表するヴァイオリニストとして世界中で活躍し、サロネン指揮ロサンゼルス・フィルとのショスタコーヴィチ、ティーレマン指揮ドレスデン・シュターツカペレとのブラームスの協奏曲のディスクは、数々の受賞とともに音楽ファンに大きなインパクトを与えた。

チケットのお申込み

カジモト・イープラス 0570-06-9960

※音声自動応答で承りますが、オペレーター(10:00~18:00)もご選択いただけます。ホームページからお申込みいただけます(パソコンもケータイも同じアドレス)。

カジモト・イープラス <http://kajimotoeplus.com/>

0570で始まるナビダイヤル番号は、PHS、IP電話など一部の回線からは接続されない場合がございます。NTT加入電話、公衆電話などをご利用願います。

チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード: 197-925)
e+(イープラス) <http://eplus.jp/>
CNプレイガイド 0570-08-9990
ローソンチケット 0570-000-407
サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

[twitter @kajimoto_news](https://twitter.com/kajimoto_news)

<http://www.facebook.com/kajimotomusic>

便利なケータイサイトもぜひご利用ください。
iモード・EZweb・Yahoo!ケータイ 対応
チケットもご購入いただけます。

カジモト・イープラス



一般発売: 6/15(土)10:00~

カジモト・イープラス会員限定先行受付: 6/6(木)12:00~6/10(月)18:00 先行受付専用番号 TEL: 0570-06-9969[10:00~18:00(初日のみ12:00より受付)]

- やむを得ぬ事情により内容に変更が生じる場合がございますが、出演者・曲目変更などのために払い戻しはいたしませんのであらかじめご了承願います。
- 未就学児のご入場はご遠慮いただいております。
- 団体料金のある公演もがございます。詳しくはお問合せください。